



高砂青松 Rotary Club

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan



例会記録 2007. 10. 24 (水) 通算1407回

ソング 「奉仕の理想」「歓迎歌」

四つのテスト クラブ会報委員会 嶋谷 委員長

本日のゲスト

- ・国際ロータリー 第2680地区 三木 明 ガバナー (姫路ロータリークラブ)
- ・随行者 山野 昭彦 会員
- ・国際ロータリー 第2680地区 東播第2グループ 田水 敬雄 ガバナー補佐

来訪ロータリーアン報告 西田 秀雄 様 (高砂R.C.)

出席報告 10月24日 会員数 55名 欠席者 8名 出席率 83.67%
(この内出席免除者6名)

10月3日 会員数 55名 欠席者 7名 出席率 85.71% <修正による>
(この内出席免除者6名)

今日は何の日?

【10月31日】



世界勤儉デー

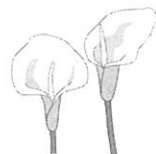
(国際貯蓄銀行協会1925)

ガス記念日 (日本瓦斯協会1972),
ハロウィン, そばの日 (毎月)

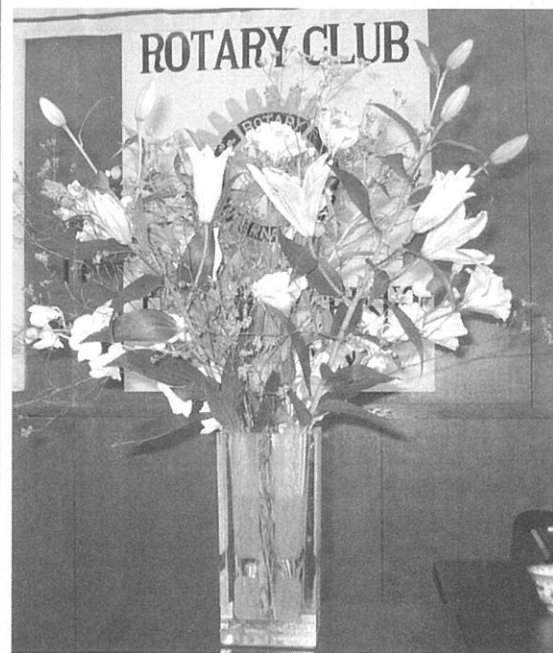
- ・横浜でガス灯が点灯され、日本のガス事業の幕開け (1872)
- ・自由民権運動を弾圧する政府に対し、旧自由党员が中心になり、秩父で大規模な反乱 (秩父事件) (1884)
- ・初の外国野球チーム招待試合 (1907)
- ・東京のダンスホール閉鎖 (1940)
- ・昭和天皇在位50年で初の公式記者会見。「原爆投下は戦時中でやむを得ぬと思う」と発言 (1975)

誕生花: カラー (かいう) (Calla)

花言葉: 熱血



花を飾ろう



ガバナーをお迎えして。

菊地 敬子

第2680地区

三木 明 ガバナーが公式訪問 される



平成19年10月24日 三木明ガバナーが当クラブを公式訪問

本年度、国際ロータリーのテーマは、「ROTARY SHARES」
「ロータリーは分かちあいの心」であります。

このテーマは、アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴで開催されたガバナーエレクトの研修会・国際協議会において発表されました。

本年度のウィルフリッド・J・ウィルキンソン国際ロータリー会長は、カナダ、オンタリオ州、トレントン・ロータリークラブの会員で、元公認会計士であります。

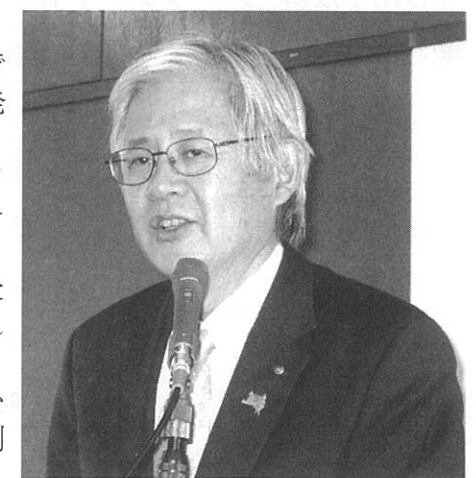
ウィルキンソン会長には、国際協議会でお目にかかりましたが、物腰が柔らかく、謙虚な方で、奥様も同様に上品で優しく、瞳の奥に慈愛の心が満ちている方です。

会長が、このテーマを発表され、私たちロータリアンが進むべき道を示して下さいたその時、ガバナーエレクトから満場割れんばかりの拍手が送られました。

「愛」と「親切心」を説く会長の謙虚なお姿を拝見して、よきロータリーが復活する兆しを見出し、安堵したのであります。

さて、本年は、ロータリーの原理を紐解く1年でありたいと思っております。

わずか4人の青年が始めたこのロータリーは、100年を越えてなお隆々と発展し、巨大な組織に育ってまいりました。その間、幾多の変遷があり、親睦と奉仕のはざ間で揺れ動いてまいりました。また、理論と実践についても議論が続けられているところであります。



三木 明 ガバナー

本誌は、職場や家庭に持ち帰って、皆さんで一緒に読み下さい。

会長 増田 耕太郎 幹事 大橋 卓司 クラブ会報委員長 嶋谷 拓雄

例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室 (2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (079) 443-0500(代)

どのような組織も時代とともに変化していかなければなりません。成長するということは周りの状況の変化に対応し、同時に自らも変化していくということでもあります。しかし、**根底に流れる原理原則は変わってはない**と思うのであります。

変わらざるべきもの、万古不易なもの、それがロータリー精神であり、理念であります。

なぜ私たちはロータリーに席をおくのか、ロータリーを愛してやまないのは何故なのか。見果てぬ夢を追いつつその意義を皆様とともに考えたいと思っております。

本年度は特に地区の目標は掲げておりません。国際ロータリーのテーマ **“ROTARY SHARES”** **「ロータリーは分かちあいの心」** これこそが地区においてもテーマであります。

ガバナー月信より抜粋

Secretary **幹事報告**

第15回 通算1334回

1. ガバナー事務所より
地区大会追加登録の依頼
2. 回覧その他

高砂音楽家協会より、ウィンターコンサートのご案内
日時：2007年12月1日（土）14：00～
場所：高砂市福祉保健センター
中ホール

Neighbor-club information **近隣クラブINFORMATION**

クラブ名	変更内容	日時・場所
姫路ロータリークラブ	休会 [定款第5条第1節(c)]	11/16(火)
〃	姫路中央R.C.との交流例会	11/20(火)⇒11/22(木) 12:30~14:00 於：姫路商工会議所7階701ホール
明石南ロータリークラブ	移動例会	11/9(金) 於：日新信用金庫8階会議室
〃	祝日休会(メイクアップ不可)	11/23(金・祝)
加古川平成ロータリークラブ	休会 [定款第5条第1節(c)]	10/31(水)
明石南ロータリークラブ	休会 [定款第5条第1節(c)]	11/8(木)
〃	クリスマス家族会	12/20(木)⇒12/22(土)
〃	休会 [定款第5条第1節(c)]	12/27(木)
姫路中央ロータリークラブ	地区大会	11/1(木)⇒11/3・4(土・日)
〃	親睦旅行	11/8(木)⇒11/10・11(土・日)
〃	姫路R.C.との交流例会	11/22(木)
〃	献血例会	11/29(木) 於：姫路リバーシティ駐車場

プログラム予定

10月31日(水)	11月7日(水)	11月14日(水)	11月21日(水)
卓話 地区職業奉仕委員会 委員 田中伸明会員 【職業奉仕委員会担当】	卓話 廣瀬明正会員	創立30周年記念及び I.M. 実行委員会	R財団地区委員 【ロータリー財団委員会担当】

President **会長の時間**

本日は、年度を通じて一番大切な日でございます。又、緊張する日でもあります。ガバナー公式訪問日ということで、三木明ガバナーと随行者として山野様、そして田水ガバナー補佐をお迎えいたしております。

三木明ガバナーは、1950年(昭和25年)の1月1日の御誕生ということでまことに目出たい日のお生まれで、まだ57才という若々しさでございます。職業は歯医者さんです。1981年5月に名門の姫路ロータリークラブに入会され、これまでクラブの幹事・会長はもちろんの事、地区の代表幹事・西播第

一グループのガバナー補佐、地区の国際奉仕・青少年奉仕・職業奉仕委員会、そして震災復興ボランティア委員会などのあらゆる委員長を歴任されました。又、姫路ロータリークラブは素晴らしい会員が星のごとく在籍され、これまで5人のガバナーが出られた名門中の名門、その中で6人目のガバナーとしてまさになるべくしてなられたロータリーの申し子のような方でございます。ロータリーのあらゆる事に精通されていらっしゃる方といっても過言ではありません。

今日は私も大変緊張していましたが、お目にかかり大変おだやかな、人を包み込むような優しい方でありました。

後ほどのガバナーのお話を楽しみに致しまして、会長の時間と致します。

Donation **ニコニコ報告**

ガバナー 三木 明・随行員の山野昭彦
本日は、お邪魔致します。よろしくお願ひ申し上げます。

田水 敬雄
本日は、三木 明ガバナー・随行者 山野昭彦様
公式訪問、大変ご苦労さまです。

増田耕太郎
本日はガバナー公式訪問日です。
国際ロータリー第2680地区 三木 明ガバナー、
随行者として山野昭彦様をお迎えして
います。ようこそおこし下さいました。ごゆっくりなさって下さい。

井野 隆弘・大橋 卓司・大森 千里
澤田 孝彦・鹿間 行雄・志方 正昭
竹原 俊三・都倉 達殊・矢野 聡

青木 裕加・岩崎 勇人・植杉成一郎
内海 薫・岡本 崇司・西中 亮二
柿木 國夫・亀本 泰司・菊地 敬子
京谷 慎平・栗原 康高・小西 文孝
佐野 栄作・志野木貞夫・庄司 武
嶋谷 拓雄・田中 伸明・辻田 重恵
中右 和宏・中谷 利幸・西田 光衛
西野 勝・濱田 喜重・濱中 幹雄
藤本 明久・廣瀬 明正・渡辺 弥生

三木ガバナー、田水ガバナー補佐、随行の山野様、お忙しい中、本日は高砂青松ロータリーに公式訪問頂き有難うございます。ご指導方宜しくお願ひ致します。

三輪 佳公
過日、井野会員には母がお世話になりありがとうございました。大変喜んで帰りました。

砂川 仁史
結婚記念日お花ありがとうございました。

S.A.A. だより 『十三夜』について

平成19年10月24日
S.A.A. 竹原俊三

昨日(10月23日)は、「十三夜」でした。美しい「十三夜の月」を見られましたか？
二人で見た「十三夜の月」を思い出し、光源氏のようなかつてを思い出した先輩も多いのではないのでしょうか。

『月見』というのは、「旧暦の8月15日の十五夜」と「旧暦の9月13日の十三夜」の二回する風習が、平安時代に始まったと言われております。その旧暦の9月13日の十三夜が、昨日(10月23日)でした。

平安時代の貴族の間では、十五夜の月見を二人ですということとは『十三夜の月も二人で見ること』を意味していたそうで、月見へのお誘いはイコール=プロポーズの言葉でもあったようです。

因みに、紫式部は、石山寺で琵琶湖に映える美しい「十五夜」を眺められながら、あの「源氏物語」を書き始めた……と伝えられています。

光源氏を自認する現役諸先輩のご健闘をお祈りして。

以上